令和二年度

水について考える

第四十二回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県優秀作品集

茨城県

もくじ

第四十二回　茨城県優秀作品（令和二年度）

【最優秀賞】

きれいな水が世界中に届きますように　水戸市立第四中学校　三年　ヒア　キネイサ　……1

【優秀賞】

湧水の復活を願って　茨城大学教育学部附属中学校二年　佐々木（ささき）　あすか　……3

大切な「水」について　水戸市立第四中学校　一年　森（もり）　彩乃（あやの）　……5

今だから気づいたこと　筑西市立下館中学校　二年　金澤（かなざわ）　花帆（かほ）　……7

繋ぐ―青く美しい未来に向けて　筑西市立下館中学校　三年　藤代（ふじしろ）　かれん　……9

【入　選】

みんなの幸せのためにできること　茨城大学教育学部附属中学校一年　金沢（かねさわ）　青空（そら）　……11

命の水　筑西市立下館中学校　一年　藤代（ふじしろ）　かりす　……13

私たちの大切な水　鉾田市立鉾田北中学校　二年　箱崎（はこざき）　ゆきの　……15

きれいな霞ヶ浦へ・・・　筑西市立下館中学校　一年　塩田（しおた）　あすみ　……17

きれいな水を届けるために　水戸市立第四中学校　一年　菊池（きくち）　柚希（ゆずき）　……19
キレイな水を世界へ　水戸市立第四中学校　二年　関根（せきね）　沙耶（さや）　……21
水　水戸市立笠原中学校　三年　山野（やまの）　珠々菜（すずな）　……23
「水の日」及び「水の週間」について　……25
第四十二回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について　……26

第四十二回　茨城県優秀作品

（令和二年度）

最優秀賞

きれいな水が世界中に届きますように

水戸市立第四中学校
三年　ヒア　キネイサ

きれいな水が当たり前だと思っていました。

私は数年に一回、祖父母を訪れに帰国することがあります。都会な日本を離れ、自然に囲まれたインドネシアへ。行き先は田舎でしたが、豊かな自然に囲まれて過ごすことは憧れでもありました。けれども実際に過ごしてみて、衝撃を受けたことがありました。

日本では、料理をするときも水道水を使います。お風呂のときも、ずっときれいな水がでてきて安心です。けれども現地の人は料理で水道水を使うことはありません。ここでは、水道水からずっときれいな水がでてくるわけではないのです。そのためシャワーを浴びるときも突然濁った水や砂利を含んだ水が流れてくることもありました。このときに私はきれいな水が当たり前ではないことを知りました。

もし、世界中の水が汚染されたら、どうなるのでしょうか。私達の健康はいつまで保たれるのでしょうか。人の健康だけではありません。汚い水で生きる魚や育つ家畜、野菜はどうでしょうか。私達の食べ物にも影響がでてしまいます。日々の生活で、例えば洗濯するときに、洗ってくれる水が汚かったら意味がありません。きれいな水は私達の健康から生活まで支えてくれています。

また、私は下水道の大切さも感じました。日本では使われた水は極力きれいにしてから海に流します。けれどもインドネシアでは使われた水はそのまま川に流されていました。街を流れる川は濁り悪臭を放っています。汚れた水はきれいになることなく、逆にきれいな水を汚していました。

世界には、汚れた水で苦しむ人がたくさんいます。ある国の貧しい子供は、生きるために汚い水を飲み死んでしまいました。水は、状態によって健康を守るものにも、命を奪うものにもなってしまうのです。

どうすれば、インドネシアでもきれいな水が当たり前のように流れるのでしょうか。私は、日本とインドネシアでは環境への意識の差が大きいことに気付きました。日本では自分のゴミに責任を持つ人が多く、ポイ捨てをする人は少ないです。それに対してインドネシアではポイ捨てを悪いと思う人は少なく、街では道端などに転がるゴミが後を絶たず、川に浮いている缶やペットボトルは減るばかりか増え続けています。それを見たとき私はショックを受けました。

きれいな環境を保つことは、きっときれいな水をつくり、保つことにつながると思います。そのためにはまず、一人一人の環境への意識や行動が欠かせません。それは、インドネシアだけではなく、世界中の国々もそうだと思います。

水は私達が生きる上で欠かせない存在です。水の代わりになるものは、私はないと思います。だから、私達は水を守らなければいけません。無駄使いすることなく大切に。汚れた水をきれいに、そしてその水をいつまでも続くように。

もし、世界中の水がきれいになり、世界中の人々がその水で生きれたら、どんなに素敵でしょう。安心して水道水を使うことができて、貧しい子供達は何も恐れず水を飲むことができます。笑顔も増えるのではないでしょうか。そんな日がいつか来ることを願って。

きれいな水が世界中に届きますように。

優秀賞

湧水の復活を願って

茨城大学教育学部附属中学校
二年　佐々木　あすか

私の通っている中学校の近くには、曝井と呼ばれている泉があります。愛宕山古墳の西側にある瀧坂の中腹にある、小さな湧水です。昔の人々が、この湧水で布を洗って曝していたことが由来となって名付けられました。周りは竹林に囲まれており、風が吹くと、竹のカラカラという音が周囲に響きます。春には筍も生えており、秋には紅葉を見ることもできる自然豊かな場所です。

しかし、晴天の日でも薄暗く、泉の水量が少ないため、近くにある小さな池はよどんでいました。「萬葉曝井の森」として整備されていますが、観光客が時折訪れる程度です。今となっては、近くに住んでいても行ったことがない人がいるくらい、身近な存在ではなくなってしまいました。

そんな曝井も、昔は、水がきれいで水量も豊富だったため、人々の生活には欠かせない場所でした。常陸國風土記や万葉集に載せられるほど、有名な場所でもありました。

私は小学生の時、地域の湧水について興味を持ち、自由研究で調べました。すると、水戸の中心部は台地の上にあり、台地のすそにはたくさんの湧水が分布していることがわかりました。昔は、どの湧水も水量が豊富で、水もきれいだったようです。けれど、今はこれらの湧水は、水量が少なく、水質も低下し、ほとんどが飲用や生活用水に適していません。地面の多くが舗装され、雨水が染み込まないことが原因の一つではないでしょうか。

現在の水戸市の水道は、那珂川から取水し、浄化して使用しています。しかし、災害が起きると水道が使えなくなることがあります。実際私も、東日本大震災の時は、停電より断水で困りました。そんな時、役に立つのが湧水です。水戸市上国井町にある軍民坂湧水は、今でも飲用に使われています。古い

コンクリートで丸く囲われた中から水が豊富に湧き出て、側溝に流れ落ちています。近くには飲用水の基準に適合しているという検査証がはられ、ひしゃくがつるされています。私が訪れたのは夏の暑い日でしたが、通りかかった農家の人が車を降りて、美味しそうに水を飲んでいました。東日本大震災の時は、遠くからも人が来て、水の順番を待つ行列ができたそうです。

人が生きていく上で、水は欠かすことができません。そのため、今後の災害に備えて、湧水の復活を考えることは重要だと思います。調べてみると、埼玉県川越市では、道路や駐車場の舗装を雨水が染み込むものに変えたり、雨水の利用を増やすなどして、水の循環の拡大に取り組んでいることがわかりました。湧水の復活事業は、雨水の集中を防ぐので、集中豪雨への対策にもなるそうです。環境省は「湧水保全・復活ガイドライン」を出していて、「湧水は普段見ることができない地下水が地表に姿を現したものであり、湧水を保全することはその源である地下水を保全することにも繋がります。」とありました。湧水の復活は、地域の災害井戸の保全や水質改善にも繋がることがわかりました。

私は地域の湧水を調べていて、きれいで豊富な湧水を見ると、とても癒されました。湧水は水資源として役に立つだけでなく、私たちに安らぎを与えてくれます。

今は人気のない曝井ですが、水量が増し、水がきれいになれば、地域の憩いの場になるのではないでしょうか。私は、より多くの人に湧水の大切さを知ってもらい、湧水を復活させたいと願っています。

優秀賞

大切な「水」について

水戸市立第四中学校
一年　森　彩乃

「水を大切に」と言われても、どうもピンとこない。自分が水を節約しても別にかわらないのでは。そう思ったことは一度でもあると思います。私もそう思っていました。

今の私たちの生活で水は蛇口をひねれば簡単に出てくるもので、毎日生きていくためにかかせないものです。そんな水がこの地球からなくなってしまったらどうなるでしょうか。当然食料も手に入らなくなり、人間はまちがいなく生きられなくなるでしょう。そうだと思うけど、実際になってみないとわからない。それだと遅いのです。なので、水の大切さを今から考えていこうと思います。

まず一つ目は、水道について考えていきます。私が住んでいる水戸市では昔、用水の便が悪かったので徳川光圀が水道設置を命じたそうです。それが「笠原水道」と呼ばれ、多くの人に利用されてきました。現在の水戸市において飲料水を供給していた上水道とその水源地が「笠原水道」です。この話を祖父から聞き、共に笠原水道へ行きました。昔のように水がたくさん流れていなかったが、敷設当時の岩樋の復元模型が設置されていたり、発掘調査で出土した岩樋が展示されており、江戸期から明治時代を通じて使われた「笠原水道」の歴史を垣間見ることができました。また、「笠原水道」を復元した水場があり、「笠原水道の水」で水遊びができたり、明治時代に作られた竜頭栓から飲料水として処理された「笠原水道の水」を飲むことができました。「笠原水道」の歴史をふりかえりながら飲むと、ひんやりとして美味しかったです。

二つ目は、ダムについて考えていきます。ホロルの湯に行く途中で藤井川ダムを見てきました。藤井川ダムは、一級河川那珂川の支川藤井川に建設された多目的ダムです。想像していたよりも水がたまっ

ていましたが、水不足によりこんなに大きなダムが干上がってしまうのはとてもおそろしいことだなと思いました。その後、ホロルの湯に入ったりプールでおよいだりして楽しみましたが、おいしい水を飲み水以外に多く使用しているのはもったいないと思いました。

「笠原水道」と「藤井川ダム」に実際に行って、水はどんなに大切な資源か学ぶことができました。インターネットで検索して見るよりも実際に見たことが「水の大切さ」を知るきっかけになったと思います。毎年耳にする「水不足」はすぐに解決できる問題ではないけど、節水が必要なのです。例えば、シャワーを必要最低限使用し、なるべく湯船の湯を使うようにしたり、歯みがきのときにコップに水をためて使ったり、蛇口の水をすぐ止めるなど、どれも簡単に出来るものばかりです。自分だけがそんなことをしても意味がないとあきらめるのではなく、ささいなことを習慣にしていけばそれが普通のこととなり、あたり前になるでしょう。自分がすれば、家族も節水をするきっかけとなり、そのきっかけがどんどん広がっていくかもしれません。そうなると、節水の意味が生まれてきます。

もう少しで、暑い夏がやってきます。今こそ一人一人が「水の大切さ」に気付き、節水を心がけ夏の水不足をなくせるよう努力するときではないのでしょうか。

優秀賞

今だから気づいたこと

筑西市立下館中学校
二年　金澤花帆

コロナ禍の今、マスクや消毒液等の品切れ品薄で不便な上、外出自粛要請を受け不自由な生活を強いられています。そんな中、何気なく過ごしていた普通の生活がどんなに幸せな事かを改めて感じました。

状況は違うけれど、二〇一一年に起きた東日本大震災で断水となり、水が自由に使えなかった時の事を思い出しました。テレビで、津波の様子を見てその水の勢いに恐怖を覚えました。

水は私達が生きるためには欠かせない自然の恵みで、ありがたいものですが、自然ゆえに時として災害をももたらす恐しいものです。

断水を経験したことで、母からよく言われる言葉があります。「ほら、無駄使い」「もったいない」と、つい水を出しっぱなしにしていると横から注意されます。どうせ使うからと面倒がって出しっぱなしにしているけれど、必要な時に使えなかった事を思うと、確かにもったいないことをしています。

日本は世界平均の約二倍の雨が降るという水に恵まれた国ですが、水不足になる可能性もあるそうです。

調べてみると、毎年ゲリラ豪雨等で土砂災害や都市型洪水が発生しているため、降る雨の量が増えたと錯覚しがちですが、実際には局地的・短時間に集中して雨が降るために雨量が増えたと思ってしまうだけで、ゆっくりと確実に年間降水量は減少しつつあるとのことです。

もともと日本列島は山地が多く、山に降った雨は大陸と比べてあっという間に海へと流れてしまうという地形的なデメリットがあり、特に梅雨や台風の時期に降った雨の大部分は洪水となって一気に川を下り、利用されないまま海に流出してしまうそうです。

近年は、「雨はなるべく早く排出する」という考

え方で街づくり・家造りが行われているらしく、降水量は減少し地中に染み込む前に海に流れ出てしまうので、結果として使える水の量が減っていくということです。

私は、水不足の心配を身近に感じられていません。でも、汚染された水源を使用する人々の間に病気や死をもたらし、毎年三〇〇万～四〇〇万人が下痢、コレラ等の水に由来する病気で死亡しているという記事も目にし、その数の多さに驚きました。

実際に水不足で色々な問題があることも忘れてはいけないことなのです。

ひと言で水と言っても雨が降れば水が無限にあるのではなく、地球温暖化により異常気象等、あらゆる事が関係して水の恩恵を受けられることを考えると、一人一人の意識がとても大切だという事に気づかされます。

例えば、地球温暖化の対策としてごみの分別を徹底する、電化製品の使用方法を見直す等、できることは沢山あります。

また、水を大切にするということでは歯みがきの時にコップを使う、野菜を洗う時にはボウルに水をためて洗う、出す水の量をいつもより少し減らすだけでも十分な節水につながります。

水が自由に使えなくなった不便さを時間が経つにつれて感じにくくなっているけれど、あたり前にあるものはいつまで永続してあるとは保障されていないものと記憶しておかないとならないと思います。

まずは、私自身もちょっとした水の無駄使いをなくしていこうと思います。自分さえよければ良いという考えを捨て、一人一人の心がけで未来を守っていきたいです。

災害はいつ何処でどのような形で起こるか分かりません。不便・不自由になったことを忘れず経験を活かし、限りある自然とうまく向き合っていかなければならないと思いました。

優秀賞

繋ぐー青く美しい未来に向けて

筑西市立下館中学校
三年　藤　代　かれん

二〇一九年十月十二日、その日は台風十九号の影響で雨が降り続いた。テレビで報道されるのは台風による大雨のことばかり。私はこんな経験をしたのは生まれて初めてだったので不安でしかたなかった。

筑西市内では大規模な災害は起こらなかったものの、県内では川の氾濫や浸水被害などが起こった。

いつもは穏やかに流れ、四季折々の風景を見られる勤行川も堤防ギリギリまで水が押し寄せ、大雨・洪水警報及び避難勧告も発令された。また、断水も予想されたため、ペットボトルの水を買うなどして備えていたが、本当になったらと考えると焦りが出てきた。この台風で水の脅威と水のありがたさを同時に感じた瞬間だった。

水のありがたさはトイレやお風呂など身近なところで感じられている。生活するうえで欠かせない水。その水には使う場面によってメッセージが隠れていると思う。例えば、朝起きて顔を洗うときには「今日も一日頑張れ！」や「良い一日でありますように」だったり、お風呂で温まっているときには「今日もお疲れさま」など私たちは水とメッセージを相互して水との共存をしている。改めて考えると、私たちは水の恩恵を受けているが世界ではまだまだ水問題は課題を抱えている。

新聞を見ているとＳＤＧｓという言葉を見つけた。ＳＤＧｓは二〇一五年の国連サミットで定められ、持続可能な開発目標を十七個掲げている。その中の一つである「安全な水とトイレを世界中に」は二〇三〇年までにすべての人が安全な水とトイレを利用できる世の中であることを目指している。日本では簡単に水を飲むことができるが世界の人たちは水不足を抱え、トイレすら普及していない国だってある。その人たちを救うためにも日本の水技術を伝えて生かして、きれいな水とトイレを届けられたらと思う。

だが、この取り組みを知らない日本国民はたくさんいるのではないかと思う。私もその一人であった。これらを多くの人に浸透していかないと二〇三〇年までには目標は達成できない。そのために誰もができる取り組みをしていくべきではないかと考える。

まず、学校や地域の取り組みの一環として「水プロジェクト」を行うことはどうだろう。講演会や水に関する体験学習など参加型にすることで水について学べるのではないかと思う。

次に、三月二十二日の世界水の日を浸透させたいと思う。世界水の日は世界各国で水の大切さを知ってもらうために会議や展覧会などが開催され、青いものを身につけることでより多くの人に水の問題について関心を持ってもらう「ブルー・フォー・ウォーター」キャンペーンを行っている。このような情報をみんなに知ってもらい、小さなことから始められたらと思う。やがてこの小さな積み重ねが大きな実となって世界に広がってくれることを願う。

それにあたり、水をはじめとする環境問題について学ぶことはもちろんだが、節水や汚れた水を流さないなど自分にできることを引き続き実践していきたいと思う。自分たちの未来だからこそ自分たちでこの地球を守っていきたい。未来に繋がる一歩が今から始まっている。

入　選

みんなの幸せのためにできること

茨城大学教育学部附属中学校
一年　金　沢　青　空

「妹の命を奪った水。生きるためには飲むしかなかった」これは、テレビで流されたＣＭ中の言葉です。

私にとっては深く考えたことがないくらい、安全な水があるのは日常です。水道をひねれば出てくる水。レストランでも店内で当たり前に出てくる水。安全な水が飲めることが普通である私にとって、衝撃的なＣＭでした。そこで、安全な水について調べてみようと思いました。

このＣＭのように、安全な水が飲めるのは、地域によって大きな差があります。世界には、およそ三人に一人が、安全な水を飲むことができていないそうです。また、不衛生な環境が原因で、毎日八百人以上の人が命を落としているそうです。

給水処理が進んでいない地域では、家から遠く離れた場所まで、毎日、生活に必要な水をくみに行く女性や子供が多くいます。そのため、学校へ行くことができない子供が大勢いるそうです。文字が読めないまま、大人になる人。学校で自由に、友達と遊んだりできない人がたくさんいるんだと知り、さらに、ショックを受けました。

浄水処理を整備することで、水がもたらす良い効果が三つあります。

一つ目は、安全な水が飲めることです。給水所ができると、これまでおなかを壊していたり、命を落としていた子供たちが大幅に減ります。

二つ目は、病気にかかりにくくなることです。十分な量の水を使えるようになり、身の回りを清潔に保てるようになるため、衛生環境が良くなり、感染症にかかる子供も減ります。

三つ目は、学校に通える子供が増えることです。子供たちが水くみから解放され、学校に通えるようになるため、文字が読めたり、計算をしたりできる

ようになります。このことで、健康に生きるための情報を得ることができます。さらに、読書などを通して、将来への夢を持つこともできる人が増えるのではないでしょうか。それから、上下水道の整備も進めば、トイレの普及が進み、より衛生的な環境の中で生活できると感じました。

ほんの一部ですが、世界の水の事情を知り、日本がなぜ、安全な水が自由に使えるのか、疑問に思い、調べてみました。

理由としては、三つ考えられます。

一つ目は、日本の水質基準がとても厳しいことです。例えば、大腸菌についてです。日本では検出されてはならないと定められていますが、他の国々ではそうではないようです。

二つ目は、日本のダムなどの貯水技術です。日本の川は、急で短いので、水が一気に海に流れ出てしまいます。そこで、ダムなどを作ることで、安定して水を利用できています。

三つ目は、水道料金の安さです。日本は、水道料金が、世界と比べて利用しやすい金額設定になっていることがわかりました。このことで、日本全国に、水道の利用が広まりやすくなったと思います。

改めて、私自身が、安全な水をいつでも使えるめぐまれた環境にいることがわかり、ありがたく感じました。災害や水不足で、節水を呼びかけられていることは知っていましたが、普段から、水を大切に使いたいと思いました。

もっと、世界の水の事情について調べ、正しい知識を深め、世界に対して自分には何ができるのか考えていきたいです。また、日本がどのような経緯で、今のように水の環境が整えられてきたのか、勉強していきたいです。

入　選

命の水

筑西市立下館中学校
一年　藤　代　かりす

鮭が川を上る姿を、小学生の時に初めて見ました。岩を越えるため、流れてくる川に何度も立ち向かって、一生懸命に川を上る姿に力強さを感じました。

私が住む筑西市には勤行川が流れ、鮭がそ上することで知られています。街中を流れているため、とても身近にその様子を見ることができます。勤行川は一年を通して、いろいろな風景を私たちに見せてくれます。

小学校では、総合学習で勤行川の生き物や環境について学び、鮭の稚魚の放流もしました。そして、霞ヶ浦や浄水場に行って、水に関わる学習をしました。霞ヶ浦では船に乗って霞ヶ浦を巡り、浄水場ではその霞ヶ浦の水を浄化し私たちに生活水を届けることを学びました。

水は、さまざまな用途で私達の生活を支えてくれています。農業や工業用水、水力発電などがありますが、やはり一番身近なのは、日常生活には欠かすことのできない水なのではないかと思います。

私は水が大好きです。水を飲むと元気がわいてきます。特にスポーツで汗をかいた後の水は体がすっきりし、さらにがんばろうという気持ちになります。日本では、きれいな水を飲むことができます。私たちが生活するうえで水は欠かせないものですが、水があることが当たり前のように思っていました。

しかし、世界に目を向けるとどうでしょうか。テレビのＣＭで、「生きるためには汚い水でも飲まなくてはならない」というのを見て驚きました。そこで、世界の水の事情について調べてみました。

世界全体でみると、発展途上国を中心に、二十一億人の人が自宅で安全な水を利用できない状況であり、そのうちの約九億人が安全な飲み水が手に入らないのが現状です。池や川から汲んできた水が生活の水なのです。また、その水汲みをしている人が子

供であることにも驚きました。往復六時間もかけて歩いていくのです。日本では、蛇口をひねればきれいな水が出て容易に水を使用できますが、世界ではこんなに苦労している国があるのだと胸が痛くなりました。私たちが学校で勉強しているのとほぼ同じ時間が水汲みに行っている時間なのです。生きるための六時間。私にはとても考えられない事実でした。さらに、汚れた水を飲むことで、たくさんの子供が命を落としていることにもです。

今、コロナウイルスの影響で、手洗い・消毒がさけばれています。私も今まで以上に手洗いを念入りにし、たくさんの水を使うようになりました。ふと考えてみると、日本では水道から水が出て、きれいな水が使用できるから、きれいに手を洗えているのだと気付きました。この状況に、心から感謝したいと思いました。

水は、私たち人間を含め、地球上のすべての生き物にとって、大切な生命の源です。そしてかぎりある資源です。今、世界の水環境を改善するために、各地でいろいろな取り組みが行われています。その中できれいな水を汚さない工夫など、私たちにできることを考えていきたいと思います。私たちにできることは小さなことかもしれませんが、その一人一人の小さな取り組みが積み重なり、問題解決へとつながっていくように思います。

私が放流した鮭の稚魚は、今年の秋にはこの勤行川に戻ってくると思います。未来の命をつなぐために。その姿をまた見に行きたいと思います。そして、たくさんの鮭が戻る姿を、これからも残していきたいです。今の私たちの取り組みが十年後、二十年後の未来をつくります。未来に向けて、生きるためのきれいな水を守っていきたいです。

入選

私たちの大切な水

鉾田市立鉾田北中学校
二年　箱　﨑　ゆきの

いつものように、犬の散歩に出かけたときのことだ。私は、ダムの近くを通ったときにとてもびっくりした。普段は水がほとんどないダムにたくさん水がたまっていたのだ。前の日に雨が降ってはいたが、まさかこんなに水がたまっているとは思わなかった。

皆さんは、ダムの役割を知っているだろうか。ダムは、水を一時的にためて安全に流す『治水』だけではなく、様々なはたらきがある。

例えば、『利水』。『利水』とは、ダムにためた水を、水道用水や工業用水、農業用水などとして利用することだ。これによって、あまり雨の降らない季節でも、安定して水を利用することができるようになっている。

また、川の流れや河川環境を守ることだ。川の水が減少したときにためてある水を定量流して、水質や生態系を保護し、まもっている。

さらに、ダムでは、『水力発電』をすることができる。『水力発電』は、水を高いところから低いところに向かって流し、その勢いで水車を回すことで電気を作り出す。このときに使うのは水という再生可能エネルギーだけなので、石炭や石油などの限られた資源を燃やす必要がない。そして、それらを燃やすことで発生する二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しないため、地球にやさしい。

しかし、今、世界中で水不足が進行している。中国では、黄河の川の水が海まで到達しないことが起きている。また、インドやアメリカでは地下水位が低下している。「水を守るために私たちにできることは何だろう。」と思い、考えてみた。

一つ目は、節水をすることだ。水道の蛇口から流れてくる水は、一秒で二百cc。十秒流しっぱなしにするだけでも、二リットルも無駄に流れていってしまう。歯をみがくとき、顔を洗うときに蛇口を締め

るだけで、無駄に流れていく水を減らすことができる。また、お風呂の残り湯を捨てずに洗濯や植木の散水などに再利用したり、使い終わった食器をため洗いすることで、使う水の量を減らすことができると思う。

二つ目は、できるだけ水を汚さないようにすることだ。使い終わった油を排水口に流し込むと、配水管が詰まってしまうだけではなく、流した油をきれいにするために、たくさんの水が必要になる。フライパンを洗うときに、キッチンペーパーで油をふきとってから洗うようにすれば、排水口に油が流れず、洗剤の使用量も抑えることができる。また、ごみのポイ捨てをしないようにすると、川や海にういているビニール袋などのゴミが減って、水がきれいになると思う。

一人一人が節水することや水を汚さないようにすることを心がければ、きっと、水不足は解決できると思う。

地球には、おおよそ十四億立方キロメートルの水がある。しかし、そのほとんどは海にあるため、私たちが生活に使えるのは地球全体の水の量の〇・〇一パーセントくらいしかない。この貴重な水を守るためには、一人一人が「自分には関係ない。」「一人くらいならいいだろう。」と思わないことが大切だと私は思う。私も、これからは、節水や水を汚さないことを心がけ、水を守っていけるようにしたい。

入　選

きれいな霞ヶ浦へ・・・

筑西市立下館中学校
一年　塩　田　あすみ

私は、普段使っている水道水について考えてみました。

私達は、いつも当たり前のように、きれいな水を日常で使っています。でも、その水が私達の所に届くまで、たくさんの行程があります。私は小学生の時に、浄水場見学へ行った事を思い出し、もう一度くわしく調べてみることにしました。

私の住む地域の水は、大きな管を通って、関城にある浄水場に霞ヶ浦から運ばれてきます。浄水場に運ばれた水は、水の量を測ったり、水の流れを安定させる着水井へ行きます。次に、水の中の細かな砂やゴミをしずみやすくする薬を入れる薬品混和池、フロック形成池に行きます。その後に、細かな砂やゴミをしずめるちんでん池へ行き、最後に、水を砂などでこしてきれいにするろ過池へ行った後、配水池、配水ポンプ、配水管を通って私達に届きます。初めは、においもきつく茶色ににごっていた水も、最後には、とう明でにおいもしなくなっていました。おそるおそる試飲すると、いつもじゃ口から流れ出てくる水と同じ味がして、ほっとしたことを覚えています。

私が霞ヶ浦から筑西市に水が来ていると知ったのは、母から東日本大震災の時の話をしてもらった時です。東日本大震災の時に、霞ヶ浦から筑西市まで通っている管が、と中で破れつしてしまい、五日間断水したそうです。そこで初めて、私達の飲んでいる水が霞ヶ浦の水だということを知りました。

私は、茨城県に住んでいても霞ヶ浦に行ったことがなく、霞ヶ浦のことをほとんど知りませんでした。そこで、霞ヶ浦についても調べてみることにしました。霞ヶ浦では、湖面をわたる風を受け、真っ白な帆をいっぱいに張って進む帆引き船体験ができます。また、ワカサギ、コイ、ハゼ、ブルーギル、ブラッ

クバスが生息するため、つりも楽しめます。
ですが、水質が悪いことがずっと問題になっているようです。霞ヶ浦で汚だくが目立つようになったのは、一九七〇年代ごろからで、養殖コイの大量死が起こったり、アオコが大量に発生したりしたそうです。その後、取水していた地域の上水にカビ臭が生じました。一九八〇年代に入り「湖沼法」が出来、色々な改善策が行われているようですが、なかなか水質は良くならないようです。
その原因は、私達の家庭から出た下水や私達の生活を健康的・快適にしてくれるための農排水、工業排水だそうです。その水を飲んでいると思うと、「気持ち悪い」「そんな水を飲んだり使っていたの」と思う人もきっといると思います。でもそれは、私達自身が便利さにあまえて霞ヶ浦を変えてしまったからなのです。そのことを、忘れてはいけないと私は思います。
水は限りある大切な資源です。自分達が使った水は、また自分達にもどってきます。
だから私達は、日常の生活の中で自分に出来る事を意識して行っていかなければなりません。まずは、お皿など洗い物をする時に、油よごれはいらない紙などで先にふき取って油を流さないようにすることや、シャンプー、リンスを必要最低限にとどめるなど、出来る事を少しずつでもいいのでやっていく事です。そして、昔のようなきれいな湖を取りもどしたいと思います。
今は、コロナウイルスで外出が出来なくなっていますが、外出が出来るようになったら霞ヶ浦へ行って自分の目で見てみたいと思います。

入選

きれいな水を届けるために

水戸市立第四中学校
一年　菊池柚希

みなさんは、「命の水が、命をうばう」ということを考えたことがありますか。私は、そんなことを一度も考えたことがありませんでした。

私は、小学五年生の頃に鴨川について社会で学習しました。鴨川には、よごれた時期があったのを知っていますか。今から50年ほど前、多くの家や工場は使い終わった水を川に流していたのです。高度経済成長の時代で、工場の生産が増え、生活の質が向上する反面多くのよごれた水が川に流れこんでよごれがひどくなるばかりでした。あぶく、においがある場所があちこちにありました。ですが、市、市民、職人さん、鴨川を美しくする会の取り組みのおかげで鴨川をきれいにすることができました。ここまでは、「命の水が、命をうばう」にはつながっていません。

みなさんは「四大公害病」というのを知っていますか。これは、日本の経済が大きく成長しはじめたころ、各地に公害が起き、多くの人を苦しませた病気です。水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく、新潟水俣病の四つです。この病気は、一つの工場が流した有機水銀が魚に取りこまれ、それを食べた人や猫が病気になったようです。手や足がしびれたり、目や耳が不自由になったりした人もいるようです。これは大きな社会問題になりましたが、現在もまだ問題が残っています。

また、私はこのようなＣＭを見たことがあります。きれいな飲める水ではない水を飲んで死んでしまった妹がいるというＣＭです。私は、このＣＭを見て、「そんなことがあるんだ」と思い、インターネットで調べてみたことがあります。そこには、「どんなにきたなくてもこの水を飲むしかない」、「やっとの思いで手に入れた水は、命と未来をうばう水」とかいてありました。その言葉がかいてある横の写真に

は、茶色くにごった水を飲む少年がいました。今、安全な水を手に入れられない人は、世界で六億六千三百万人にのぼっています。そして毎日八百人もの子どもがよごれた水や不衛生な環境が原因で命を落としています。そこで、ユニセフは、世界中の村々が学校、保健センターなどに給水所を設置しています。ユニセフは、二千三十年までに世界中すべての子どもが身近な場所できれいな水が使えるようになることを目指しています。今、私たちにできることはないのでしょうか。その一つは、ユニセフ募金です。三千円の募金は、浄水剤七千二十五錠（三万五千百二十五リットル分）に変わります。三万円の募金では、せっけん、洗剤、貯水容器などが入った家庭用衛生キット四十人分に変わります。他にできることは、海、川、池、湖をよごさないことだと思います。私たちがよごすと将来、川などの水がよごれ、そのよごれにもし有害な毒が入っていたら、それを食べた魚を食べた人や猫などが病気になってしまうかもしれません。そして「四大公害病」のようになってしまう可能性も０ではありません。それを防ぐためには、みんながそうならないために生活することが大切です。

私たちの暮らしに「水」はかかせません。そんな「水」をみんなで大切にし、「命をうばう水」をなくす活動をたくさんしていきたいです。

入選

キレイな水を世界へ

水戸市立第四中学校
二年　関　根　沙　耶

私たちが毎日口にする水。日本は、水道の蛇口をひねれば、どこでもキレイな水が出る。その水で体を洗い、洗濯をし、料理をする。私たちは、水が身近にあることが当たり前で、「水の大切さ」を忘れてしまう。

遠いアフリカではどうだろうか。多くの途上国では、水汲みは子供たちの仕事だ。子供が水の重さに耐えながら、長い道のりを歩き、整備されていない川や池で手に入れた水。しかし、その水が子供たちの命と未来を奪ってしまうかもしれない。でも、生きるためだから飲用に適さなくても、水を飲み続けなければいけないのだ。世界では、汚れた水の中の病原菌や寄生虫などが原因で、毎日約八百人の子供が亡くなっている。私は、世界の深刻な水問題を改めて認識すると供に、日常的に水を使えていることがどんなに幸せで、恵まれていることかを感じた。

水問題について、もう一つ挙げることがある。水不足についてだ。世界的に水不足を引きおこしているのは、アメリカやＥＵ、日本などの先進国の水の大量消費。この大量消費の大きな問題が仮想水の輸入だ。仮想水とは、食料を輸入している国が、その食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要か推定したもの。日本は、食料自給率が四十パーセント程度で、海外の水に頼って生きている。つまり、食料の輸入は、形を変えて「水」を輸入していると考えられるのだ。海外から日本に輸入された仮想水の量は、日本国内で使用された年間水使用量とほとんど変わらない。私たちは普通の生活のために、想像以上に途上国の生活を破壊しているのだ。海外での水不足の問題は、日本が決して無関係ではないと思った。

これらの問題が少しでも改善するためにも、私は次の二つのことを実行していこうと思う。

一つは節水だ。日常の水の使い方を見直し、水の節約を徹底したい。具体的に、手を洗うときやシャワーを浴びるときに水を出し過ぎない、出しっぱなしにしないこと。お風呂は必要な量だけ水を貯める、お湯を洗濯に再利用するなど、無駄な水は使わないことを常に心がけていきたいと思う。これまで使っていた無駄な水が、一滴でもアフリカに届くことを願って節水していきたい。

もう一つは食物についてだ。まず、食物を買うときは国内産を買うようにしたい。肉類などは、海外産の方が安いものがほとんどだから毎回国内産を買うことはできない。しかし、海外ではお金に変えられない命が失っていることも考え、買い物をしたいと思う。そして、料理を残さず食べること。今、私たちが一番簡単にできることは、これだと思う。食材の一つひとつにどのくらいの水が使われたのか、よく理解をして残さずに食べたい。

水には、限りがある。その限りある水の全てがキレイで、安全であってほしい。水はとても便利なものだ。その一方で、時には尊い命を失うこともある。

私たちが防げることは防いでいきたい。今、私にできることを、ひとつひとつ。

入選

水

水戸市立笠原中学校
三年　山　野　珠々菜

コップを片手に持ち、水道の蛇口をひねる。コップには透明な水が注がれる。その水は、とても冷えていて、おいしい水だ。私はその水をそのまま口に運ぶ。それが私のあたり前の日常だ。生まれた時から、水をそうやって使用してきた。

水は人の命を維持するために、必要不可欠だ。私たちは、水をトイレや風呂、炊事、洗濯など、日常の様々な場面で必要としている。だが、その水はひとりでに水道を流れている訳ではない。私たちの元に届くまでに、川から水を吸い上げ、ダムに溜め、浄水場で安全な水に変えている。手間と時間をかけて、安全な水を届けてくれる人がいるのだ。その分、水は大切にするべきだと思う。

また、水は限りある資源である。地球上の七割が水だと言われているが、その九十七パーセントが海水として存在し、淡水は残りの三パーセントにすぎない。さらに、そのほとんどが氷河や氷山として存在している。そのため、人類が直接に利用可能な水は、総量の一パーセント未満である。このこともふまえて、やはり水は、大切にするべき資源だと思う。

水を大切にするとは、具体的に言うと、次のようなことだと考える。無駄使いを防ぐために「コップに入れて使う」「蛇口はすぐに閉じる」「ため洗いをする」など。汚染を防ぐために「ゴミを川にすてない」「食器などの油汚れは紙でふきとる」「細かいゴミを流さない」などがある。水は循環していて、私たちが汚した分、きれいで安全な水に戻してくれる人がいる。水には、多くの生き物が住んでいて、私たちが汚染を続ければ、その生き物たちはそこで生きられなくなってしまう。だから、どんなに細かなことでも、意識して行えば、必ず誰かのためになっているのだ。

私は、どこの国も、水道の蛇口をひねれば安全な

水が出るということがあたり前の世界にしたい。そのために私は思う。

あなたが汚した水をきれいにする人がいる。汚れてしまった水の中に生きるものもいる。水は、世界中とつながっている。どこの国の人も、同じ水を使っている。だから、水の問題で「関係ない」なんて人はいない。ほんの小さなことから始めよう。いつもより一秒速く蛇口を閉め、コップを使う、バケツやジョウロを使う。風呂の残り湯を使う。洗剤を使いすぎない。だれもが日常で心がけ、実践できることだ。だが、あたり前のことほど、続けるのは難しい。一人が一日で必要とする水は、トイレや風呂を合わせて、二百八十リットルと言われている。だから、日常で使用する水を減らし、なるべく汚さないことに努められるのが一番手っ取り早いのだ。

始まりはたった一人でもいい。まずは、自分が心がけ、その考えや活動がだれかの心に響けば、それに感化され、動いてくれるかもしれない。続けていれば、自分だけでは声の届かなかったところまで、声を飛ばせるかもしれない。始めてみなければ分からない。やってみる価値はある。

私はいつか、水道水は何よりもおいしい飲み物だと言える日が来ることを心より願っている。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年５月31日
閣　議　了　解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年８月１日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年８月１日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決をはかり、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することといたしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている８月の上旬が適当であるので、その初日である８月１日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第42回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

1　募集要領

（1）趣　旨

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として，次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより，広く水に対する関心を高め，理解を深める。

（2）テ ー マ

水について考える（題名は自由）

（3）対　象

令和２年度に県内中学校，中等教育学校１～３年次及び義務教育学校７～９年次に在学中の者

（4）応募締切

令和２年５月15日（金）

（5）原稿枚数

400字詰原稿用紙４枚以内

2　応募状況

（1）応募総数

429編

学年別　　１年　134編　　２年　173編　　３年　122編

（2）応募校

８校

水戸市立第一中学校，水戸市立第四中学校，水戸市立笠原中学校，
鉾田市立鉾田北中学校，龍ケ崎市立城西中学校，筑西市立下館中学校，
茨城大学教育学部附属中学校，土浦日本大学中等教育学校

3　審　査

（1）審査方法

予備審査を通過した作品について，茨城県審査会（令和２年７月７日実施）で審査を行い，最優秀賞１編，優秀賞４編，入選７編及び学校奨励賞１校を選定した。（学校奨励賞は水戸市立第一中学校）

また，入賞した上位５作品について，国土交通省で行われる中央審査に推薦することも併せて決定した。

（２）審査基準

①　優秀作品

テーマ「水について考える」にふさわしく，日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で，次の基準を満たすもの。

・水の貴重さ，水資源開発の重要性などが適切にとらえられていること
・将来の夢，提案等が中学生らしくまとめられていること
・抽象的，観念的なものでないこと
・字句の正確さや，文章の構成がよくできていること

②　学校奨励賞

当コンクールに積極的に参加していること

（３）審査委員

委員長	武　藤　　秀　明	（(株)茨城新聞社編集局報道部参与）
委　員	阿　部　　重　典	（(株)茨城放送代表取締役社長）
〃	鈴　木　　優　子	（茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事）
〃	林　　利　家	（茨城県土木部河川課長）
〃	橋　本　　慎	（茨城県県民生活環境部水政課長）

４　表　彰

（１）表彰式

令和２年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止等により中止

（２）賞及び副賞

最優秀賞	（茨城県知事賞）	１名	賞状，副賞（図書券）
優　秀　賞	（茨城県知事賞）	４名	〃
入　　選	（茨城県知事賞）	７名	〃
学校奨励賞	（茨城県知事賞）	１校	賞状

茨城県

茨 城 県 県 民 生 活 環 境 部 水 政 課
〒310-8555　水戸市笠原町978番6
電話　（０２９）３０１－２６２５
http://www.pref.ibaraki.jp/